平成23年11月15日　No.264

畜産会 経営情報

主な記事

❶ 優良支援の取り組み事例
道北地区における現場の指導事例　飯田　孝之
❷ セミナー経営技術
経営支援の実際とそのあり方等について
~第2回　健康診断型の簡易な経営・情報分析をスタート~　迫田　耕治
❸ セミナー生産技術
現場に即した養豚技術
第４回　設備投資を抑えるための技術　山下　哲生
❹ (独)農畜産業振興機構からのお知らせ
肉用牛肥育経営安定特別対策事業(新マルキン事業)の肥育牛補塡金単価について
❺ あいであ＆アイデア
自作カーフハッチを利用した子牛の損耗防止対策　宮崎　大

社団法人 中央畜産会
〒101-0021 東京都千代田区外神田2丁目16番2号
第2デイーアイシービル9階
TEL 03-6206-0846　FAX 03-5289-0890
URL http://jlia.lin.gr.jp/cali/manage/
E-mail　jlia@jlia.jp

優良支援の取り組み事例

道北地区における現場の指導事例

北宗谷農業協同組合営農部　飯田　孝之

北海道の最北に位置する北宗谷農業協同組合（以下、農協）は、平成21年３月に沼川農協と豊富町農協が広域合併して設立され、豊富町全域、稚内の一部、利尻町、礼文島町を管轄する総合農協です。組合員数は正会員358名（准組合員1073）、農家戸数は238戸で、ほとんどが酪農専業農家で、そのうち、畜特資金借入戸数は40戸（うち３戸は経営維持緊急支援資金）となっています。

農業生産販売額は112億円で、酪農が86億円、肉用牛が25億円、その他・農産物（牧草など）が１億円と畜産がほぼ全額を占めています。

北宗谷地域は1970年代から大規模な草地造成開発事業を実施し、草地整備と規模拡大を行ってきました。その結果、放牧主体の大規模酪農経営が展開されましたが、一方で、草地や機械の更新がうまくいかず、濃厚飼料に頼らざるを得ない経営や、繁殖成績の低迷などの問題も出てきており、組合員の経営状況を圧迫しています。

農家と同じ目線で現状を把握し、指導する

農協の営農指導で最も重視しているのが、できるだけ多く農場に足を運び、現場で抱えている課題を農家と同じ目線で把握するとともに、農家との信頼関係を築くことです。

北宗谷農業協同組合の外観

個々の農家の飼養状況は、農協独自の営農情報システムおよび営農担当職員が作成した牛動態票により把握していますが、営農職員が乳検に立ち会い、生産現場を確認しています。今年の９月からは、立ち会い後の速報（乳成分、MUN（乳中尿素態窒素）など）をもとに実際の牛をみながらのバーンミーティングの取り組みを始めました。

これまでの指導内容を、農家と同じ目線、同じ尺度で判断するようにすることで、実際に牛を観察したときにその整合性が図れれば、農家からの信頼を得ることができると考えています。

このバーンミーティングは、月に１件（繁忙期を除く）ずつ、あるいは同じ農家で継続して行っていく予定です。

そのほか、農業経営コンサルタントと同行しながらの農家巡回や、毎月のクミカン報告書を、直接手渡ししながらの現場巡回（搾乳の手順の指導や、牛の状態把握）を通じて、なるべく多く現場に出向く営農指導スタイルの構築に向けて努力しています。

経営改善目標値の設定手法

畜特資金借入者に対する経営改善計画書を作成するにあたり、経営改善目標値を設定しますが、その手法として、①乳量・個体販売実績に基づく牛増頭（増殖）計画の立案、②新規投資計画（補助事業を活用した土地改良など）の立案のほか、③乳価の単価設定においては、個々の農家に任せるとバラツキが生じるため、毎年11月に農協の基準単価を設定し、それに生産者別に乳質・乳成分を加味して乳価を設定しています。

また、一次経費率については、農業収入の70％を目標に計画策定を行っています。

部門間で連携して指導体制を強化

先述した通り、本農協は合併して間もないため、合併前の農協間の指導に対する認識を平準化し、それを共有するため、農協内部（指導・金融・購買・各支所）の部門間の連携に努め、指導体制を強化することとしています。

その一例を紹介しますと、営農部と各支所の生産販売課は、牛動態票を基にした計画的な個体販売を実践。営農部と支所家畜改良課は、繁殖管理票を基にした繁殖検診を実施しています。

この繁殖管理票は、前述の通り妊娠鑑定の状態、繁殖検診を含め、繁殖成績の悪い牛の一斉検診を人工授精師の協力のもと実施して

管内のあちらこちらに放牧風景がみられる

います。

また、経済部および支所生産資材課は、肥料の草地への施肥などの推進を、ホクレン職員や経営コンサルタントの随行により、業務を点検しながら実施しています。

さらに、畜特資金書類申請を指導員１人ですべてこなすのは大変な作業です。そのため、金融共済部融資課と連携して、経営改善計画の作成を分担し、申請作業が滞りなく、正確に実施できるよう心がけています。

また、担当者同士が情報を共有し、課題について全員で討議する体制を敷いています。この会議は月に１度開催し、営農技術や経営指導などについて各担当者から出される生産現場における具体的な課題に対して、前向きな対策が実施できるような議論を行うことを目的としています。

このほか、合併後の旧農協間の意識の平準化を図ることを目的に、年２回、勉強会を開催しています。今年５月は法人決算書の税務処理の勉強会などを開催し、10月には農業資金研修会（改めて制度資金の概要や、資金需要が多額となる場合の利用の組み合わせなど）を実施しました。これは上記の目的のほか、農家の後継者不足による対応にも役立っています。

特別指導員の指導実施状況

１人当たりの平均農家巡回数は月46回で、巡回内容は先述した乳検立ち会いや牛動態確認などのほか、牛舎消毒や、庭先指導、家畜排せつ物処理施設調査随行、補助事業の実施状況の聞き取りなどを行っています。特に、家畜伝染病予防法が改正されたことに伴い飼養衛生管理基準も見直されましたが、これを受けて牛舎の消毒などは、農協職員も農家と一緒に実施するケースも増えてきました。

特別指導員の畜特資金借入者に対する指導状況は、上記（46回）のうち、１人当たり平均月25回で、対策農家１戸当たりの巡回数は月2.32回となっています。内容は、上記の内容に加えて、指導農家の経営状況の実態報告や、長期計画収支動向にかかる指導などを強化しています。

畜特資金借入者向けの研修会は実施していませんが、本所・支所合わせて27ある組織（青年部や女性部など）を中心に勉強会が行われており、畜特資金借入者も積極的に参加しています。

今後の課題

管内の対象農家数が多いため、補助事業の

申請やクミカン事務、研修生受け入れ業務などのデスクワークのウエイトが大きく、指導員の専門知識の習得に要する時間が少なく、技術指導力の不足が課題としてあげられます。

また、経験年数が少ない若い特別指導員が多くなってきており、まだ農家からの信頼を得られず、農家指導に行っても農家から指導助言を受け止めてもらえない場合もあります。そのため、なるべく多く農家に出向いて現場を知ることが、農家との距離を縮めるためのコミュニケーション形成のみならず、専門知識を深める勉強の場だと考えています。

また、この地域は放牧主体の草地型酪農のため、経営状況が天候に左右されることも大きな要因です。

例えば、今年は２番草収穫期の８～９月にかけて長雨が続き、採草地の収量および品質の低下により、今後の生乳生産や繁殖成績の悪化が心配されるところです。

最近では管内にも農家が出資したTMRセンターが立ち上がり、飼料給与体系をTMRに移行している農家も増えてきました。今後は、TMR体系に移行した際の飼料設計や飼養管理などの指導も求められてくるため、TMRセンターの運営のみならず、指導内容の充実に努めていく必要があると思います。

（筆者：北宗谷農業協同組合営農部営農課課長）

●参考図書●

新・畜産環境保全指導マニュアル

「処理」から「利活用」へ。畜産環境保全をとりまく最新情報を掲載！

「畜産環境保全指導マニュアル」の発行から９年ぶりに改訂された本書は、家畜排せつ物の「処理」から「利活用」へ、またより効果的な臭気対策や騒音対策、水質汚濁防止法改正による汚水処理基準の厳格化など、畜産環境保全のニーズの変化に対応した、畜産関係者必携の１冊となっています。

【主な内容】

支援上の心得／畜産環境保全支援の基本／家畜ふん尿処理技術の基本／環境保全技術の基本／利用促進の基本／用語解説

◎お問い合わせは――

（社）中央畜産会　事業第一統括部（情報業務）

〒101-0021　東京都千代田区外神田 2-16-2

TEL 03-6206-0846　FAX 03-5289-0890

E-mail book@jlia.jp

URL http://jlia.lin.gr.jp

セミナー 経営技術

経営支援の実際とそのあり方等について
～第２回　健康診断型の簡易な経営・情報分析をスタート～

㈳北海道酪農畜産協会　迫田　耕治

経営診断対象の変更

全北海道で酪農が8000戸弱、肉用牛が3000戸強あるなかで、経営診断（総合診断）件数は約50件であり、道内に占める割合はわずかです。以前のアンケート結果では、「丁寧に分析してもらい、懇切に話をしてくれて良かった」という評価を得ておりますが、一方で、本協会が経営診断をしていることさえ知らない畜産経営が多く存在しました。

前回、経営診断を人間の医者に例えましたが、狭く深く（徹底的に親身になって）か、浅く広く（多く簡易に）の選択の岐路に本協会は立たされました。そこで、健康診断のように浅くても良いから広く数多くを対象にし、そこで引っかかった経営に詳細な診断（総合診断）を行うことがベストとの判断に至り、新たな支援事業を立ち上げました。

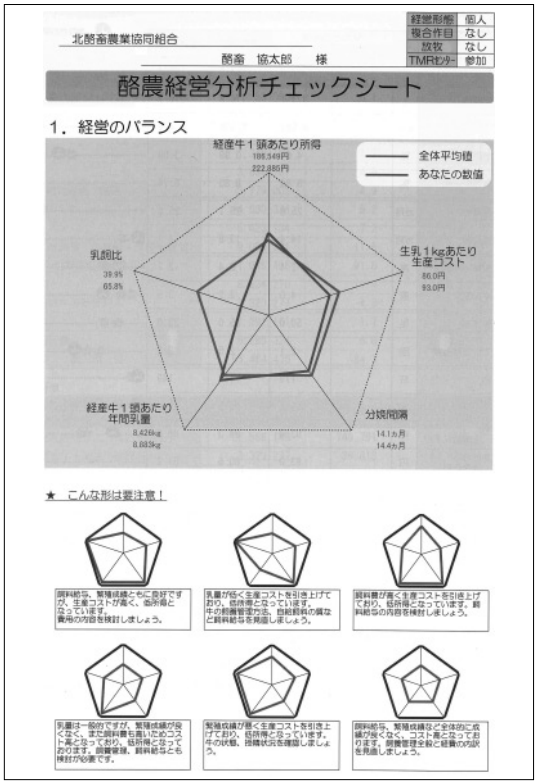
経営の健康診断用・酪農経営支援システムの概要

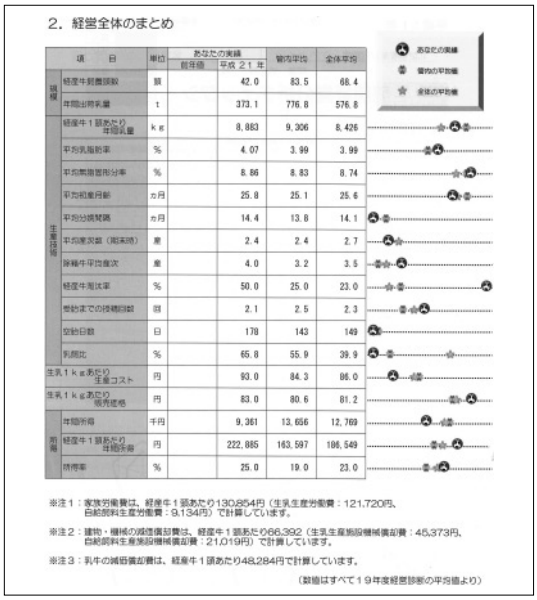
本協会では、浅く広くに対応するため、独自に「酪農経営支援システム」を開発しました。同システムでは、クミカン、牛群検定、個体識別のデータを使って、分析チェックシートを提供しています。

分析チェックシートには、個別経営向けの帳票（**図１**）と、JAが指導する際に使用できるJA管内集計帳票（**図２**）の２種類があります。個別経営向けの特徴は、技術と経営をセットで関連づけてみることができる点です。主要項目のレーダチャートのほか、JA管内における自分の立ち位置の分かる資料もあります。

農家は、自分の経営数値をおおむね分かっているのですが、他の農家に比べて自分の数値が平均的なのか、下なのか、上なのか、ということについては案外、知りません。むしろ知りたがっているものです。「あいつよりもオレの方が上だ」といった競争心ではなく、「自分の経営判断でやってきたことが周りや平均に比べてどうなのか」ということを知りたがっています。ですから「あなたのこの数値は大体平均ですよね」なんて説明すると、結構、ホッとした顔をします。自分のやってきたこと、すなわち経営判断に間違いなかったことが分かり、自信あるいは安堵（あんど）の気持ちになるのだと思います。

JA等には、同システムを農家の指導に使ってくださいと勧めています。特に、畜特農家の指導にもということでも勧めています。地





域全体のなかで、指導農家がどのような位置にいるのか、畜特の農家はどの位置にあるのかが一目で分かります。

比較値の重要性

人間の健康診断でもそうですが、比較する数値があり、それと比較することで、コレステロールが高いとか、メタボなどという診断がなされますが、農家に経営診断の分析数値を説明する際も同様に行っています。“比較する数値を示す”ことが、理解しやすいのです。

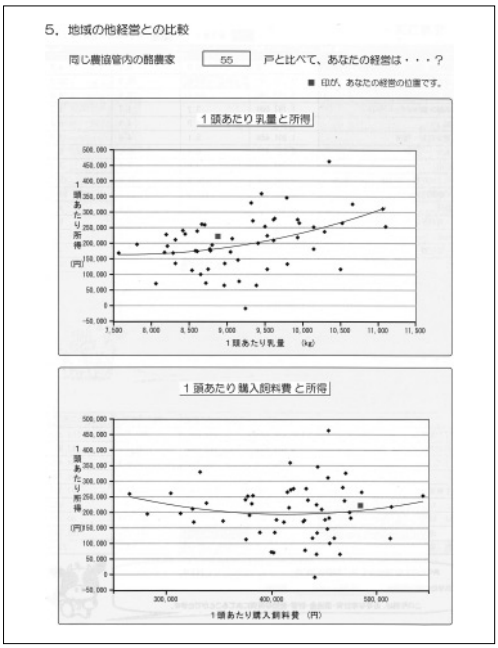


図１　個別経営向け帳票の内容（抜粋）

実績値と比べる値として、目標値や指標値という言い方をする時があります。経営改善の目標は個々の経営によって異なります。１頭当たり乳量が6000kgの経営と8000kgの経営では目標値は違います。ですから目標値は「現況からみてここまでは改善してください、というか改善できますよね」といった無理のない数値を設定することもありますし、「何が何でもここまで改善してもらわないと困る」という言い方の場合もあります。農家の考え方や技術レベル、環境などを勘案して各コンサルタントが設定することになります。

比較の際に使用するデータは、経営診断や経営調査等を実施した事例の数値です。これ

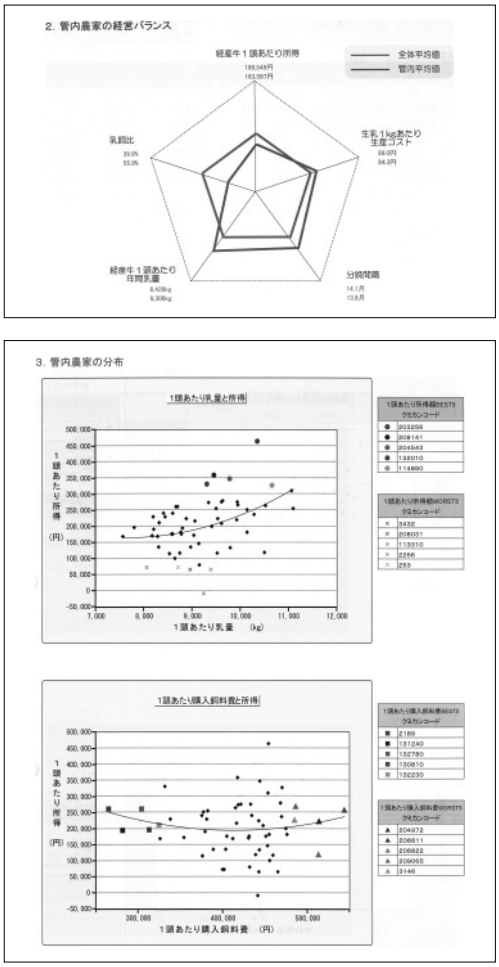


図２　JA管内集計帳票の内容（抜粋）

を規模などの階層で区切って平均値を算出し使用することになります。当然、データ数が多いほど、精度が増すことになります。事例が少ないと偏ってしまいますから、より多くのデータを集めることが必要になります。先ほど紹介した簡易な支援システムでは1000件以上のデータが集まっています。

JA管内で農家のデータを整理している例はありますが、道全体で集めているのは、本協会だけです。他にはないと思っています。県域を網羅できる、あるいは必要に応じて他県や都府県といったデータとも比較できる点は、いわゆる畜産会の強みといえるでしょう。

目標値の設定を行うのは人である

目標値の設定を行うのはコンサルタントです。コンサルタントも人間ですから、人によって数値の見方や判断の程度はどうしても異ってきます。農家の考え方や環境といった基準化しにくい要素が絡みますので当然といえば当然のことなのですが、これを補う方法として複数人によるミーティングがあります。複数人で集まることで、さまざまな角度から検討できます。昔は畜産会の診断も経営・技術・金融等の専門分野からなる県内関係機関の担当者をメンバーに入れて畜産コンサルタント団というチームをつくり実施していました。しかしながら、チームで複数人が関与すれば、当然、多くの人間が必要になり、コストも要します。これが課題となり、チーム制を組めない都道府県も多くなったというのが実態です。本協会でも現在は、内部だけで経営診断を行うようになりました。

ツールを使いこなすことのできる能力を！

報告書、助言書については、私が入ったころから今の原型を踏襲しています。畜産会が設立されたのが昭和30年。それから連綿と50年以上の診断業務の中で積み上げてきたのが今の助言書の様式です。多岐にわたり細いし、ガチガチに固まっていて小回りが利きにくい。もっとシンプルにとか、分かりやすく整理して欲しいなどといわれますが、別の場面でこの表はいる、これもいる、これも必要なんてことがあります。結局は、使う人、欲し

い内容によって違うのです。今までの原型はそういう意味であらゆる場面に対応できるものです。われわれのツールとして自信をもって利用できるものなのです。

ツールについて確かに使いにくい面もありますし、小回りの利かない部分もあります。でも、用意されているツール全てを同時に使うということは少なく、場面場面で使い分けするものなのです。指導者には、ツールを顧客に合わせて使いこなすという能力が求められていると思います。

肉用牛支援事業の立ち上げ

本協会には、家畜（和牛、豚、綿羊）の登録・指導を行っている家畜登録改良部があります。最近、経営支援部と家畜登録改良部が連携し、新たに和牛繁殖経営支援指導事業という協会独自の支援事業を考えました。

肉用牛の経営診断は、中央畜産会が大家畜畜産経営データベースでオンライン提供している肉用牛経営分析システムを使っています。肉用牛の指導には、コスト等経済面の指導のほかに、当然、飼養管理、改良といった技術指導も必要になってきます。このことから農家指導にあたっては、両部で連携して指導内容を検討し、経営支援部が経営管理指導、家畜登録改良部が技術指導をセットで行うような体制を組んでいます。

情報、データの重要性をもっと意識すること！

肉用牛経営支援事業を立ち上げての反省ですが、組織が合併した後のもっと早くから取り込もうと思えば取り組めたことです。自分のすぐ近くに、農家支援に活用できるデータを持ち、能力もある仲間がいながら、また、いることを知っていながら、ついつい自分たちの業務を完結させてきました。意外に組織内の他の部署の業務や関係組織で手に入るデータや蓄積された情報で役に立つものがあるものです。自分のところに、または他の部署にどんなデータがあって、どのように使われているのか、どう使えるのか、案外、知らないのではないかと思います。われわれのような公益法人にとっては、情報とデータが財産です。唯一といっても過言ではないと思います。しかしながら、財産は運用しないと金を生みません。支援組織を取り巻く情勢は厳しいですが、データという財産の運用の方法を考えてみるべきだと思います。

ちなみに、データを組織的に多くの人が使えるようにするためには、メンテナンスなどに意外と時間がかかります。日本人は情報やデータをタダとする傾向がありますが、そういうデータの管理運営は時間を要するものです。間接部門になるかもしれませんが、管理部門以上に人材を投入すべきなのかも知れません。本協会としても、この点を意識した運営をしなければと思っています。

次回は、筆者が経営診断の際に行ってきた農家とのやり取りを中心に、経営診断時の留意点や具体的なコミュニケーション手法について、紹介したいと思います。

（筆者：㈳北海道酪農畜産協会事務局次長兼経営支援部長）

セミナー 生産技術

現場に即した養豚技術
第４回　設備投資を抑えるための技術

山下　哲生

自らが設備工事に関わるメリット

養豚産業は、畜産の中でも設備投資が多くかかるため、施設産業ともいえます。

特に内部設備に費用がかかるのが特徴で、豚舎を新設する時にかかる費用は、建物本体と内部で３：７あるいは、４：６ぐらいの割合で、内部設備の投資額が建物本体を上回ります。

この内部設備は、水道、電気、床材、仕切り柵などに分かれますが、多くは専門業者に発注して設備工事を行うことになります。

この設備工事を見直すことで、コストの削減が実現します。また、自らがこの設備工事に関わることで、コスト削減が進むと同時に、運用面でも自分が関わったものということで執着が生まれ、うまく使いこなせるようになるものです。

設備工事から関わった筆者の豚舎

ちょっとした修理でも業者を呼べば修理費がかかります。また、衛生面からも、さまざまな現場を回っている外部の業者が農場内に立ち入ることは、なるべく避けたいものです。

さらに、自分で工事に携わることで修理方法も自然と分かるようになり、どのあたりがポイントになるのか体得できます。やむを得ず業者に修理、工事を依頼する場合などでも、自分でかかわった仕事の部分であれば、具体的かつ詳細に説明・指示・要望等も出すことができるようになります。

また、養豚は、種豚の導入から育成、種付け、分娩、離乳、肥育とかなり時間がかかり、最短でも、種豚候補の導入から子豚が出荷できるようになるまで１年近くかかります。逆説的にいえば、軌道に乗るまでは結構時間的な余裕はあります。

反面、豚が入り生産が一巡すれば、子育てと同様に、24時間365日いつもそばにいて、なおかつ、餌の給与、給水、清掃など、すぐに終わる仕事でも現場に１日に数回はいなければ生産は成り立ちません。

つまり、現場では、システムが完全に動き

ドリルで塩ビ管に穴を開けます

専用の給水部品を穴に差し入れ反対側から締めこみます

始めるまでは時間的な余裕ができます。これを「非生産時間」という人もいるようですが、この時間を設備工事への従事という形で転用すれば、労働をすることでの価値創造プラス設備、建築等のノウハウも、「タダ」で学べることになります。

畜舎の水道工事は自らの手でできる

畜舎工事の中でも比較的簡単にでき、コスト削減にもつながり、かつ、その仕組みを理解することで実際の管理にも役立つのは、給水、すなわち水道工事です。

水道工事は、メインの給水部分は塩化ビニール、豚が接する部分は鋼管部分となります。一般に住宅用の水道工事はだれでもできるものではなく、さまざまな資格を取得しなければ開業できませんし工事にも携われません。住宅の配管、排水などを専門に手掛け、かつ、その工事方法も「法律にのっとったような」丈夫で間違いのない仕事をしています。また、きっちりした「見栄え」の良い仕事をしたがります。

これに対し、畜舎の給排水は、作業する上でも、簡単かつ修理点検がしやすいように、私たちのよくつかう「現場合わせ」で多くの工事がなされます。

今、各地にホームセンターや農業資材を専門に販売する店舗が増えており、水道関連の資材は幅広く手に入れられるようになってきました。見栄えを気にしなければ、工作をする感覚で簡単な水道工事はできます。また、必要な道具もカッターとノリぐらいで道具代もさほどかかりません。

ただ、素人工事の悲しさで、漏水、設計ミス、配管ミスによる障害などは、時々起こりやすくはなりますが、建物の基礎の間違えなどのように、それほど大きな修正になることはないようです。ただ、注意点としては、なるべく配管は埋設せず、見えるようにしたほうが良いでしょう。

設備の中で、給水、排水など水道工事費の占める割合は、豚舎では10～15%近くになるようです。

餌箱、柵などの専門機器は現場で組み立てる

畜舎の内部機材は、現場で組み立てられる

ものが結構あります。

特に、プラスチック製の餌箱などは、運搬に便利なように重ねて運ばれることが多いようです。これらの機材は、そのまま出荷先から組み立てられてくると、スペースばかり取られ、輸送コストもかかりますから、現場で組み立て、据え付けという方向になります。見積もりをきっちりと出せる業者ならば、器具機材の値段のほかに、現場での組み立て据え付け費を別に出してくれるところもあります。

その場合、組み立てを自らが行うことで、その部分のコストを吸収できます。また、そのような専門性の高い器具機材を組み立てることは、その構造の理解も進み、豚がどうそれらを使うか想像を巡らせることで、楽しくなります。

また、自らが使うとなると、ボルト１個の締め付けにしても力が入り、きっちりした組み立てができるようになります。

配置や柵の向き、通路とのとり合い、つける位置など、次々に課題はでてきますが、自分で決定し、組み立てたものならば、多少の不具合があっても、なんとか使いこなしてしまうものです。

究極の現場作業＝施工業者に雇用してもらう

畜舎建設の現場において、よく、施主と工事業者がやりかたをめぐって、長々と話を続ける場面をよくみかけます。時には、方針が決まるまで、その間工事ストップということもあります。前述したように、豚が入り生産が一巡するまではかなり時間がかかりますから、施主である生産者は現場へついつい足が向くものです。これがあまり、頻繁になると業者も対応が面倒になり、ついついコミュニケーションが滞りがちになります。このような場合、１石２鳥の妙案として紹介したいのは、施主である生産者自体が発注業者に雇用してもらう方法です。

これならば仕事も覚えられるし、賃金ももらえる、かつ現場での管理が施主の眼としてかなりきっちりできるようになります。何よりも、工期を予定通り進める上で、かなりの圧力となります。

笑い話のようにも聞こえますが、ちょっと考えれば、なかなか良い方法ではないでしょうか？　小さい経営でも創業するときは、その端緒から工事に参加することは非常によい経験になります。

自力更正の精神

今から30～40年ほど前、日本の畜産は、畜産団地を各地につくることで、急速に１農場当たりの飼養頭数を増やしてきました。

団地をつくる際には、「施設による差が出てはいけない」との「基準」で、ほぼ「右へ習え」で、すべてが同じ内容になり、使う豚も餌も同じという、運動会の「ヨーイドン」方式だったと思います。それが、４～５年たつと、お金を残す人と、借金を残す人、つまり経営に成功する人と撤退する人に分かれるようになってきました。

成功した経営者の農場をみてみると、おしなべて、同じ団地の畜舎でも、通路の仕切り、

餌箱の管理、各種の表示など、自ら創意工夫して、豚に合わせうまく使いこなしているものです。

つまり、自らの施設を、与えられたものとしてではなく、どうすれば豚にとっても働く人にとっても使いやすく快適かを考え、切磋琢磨するなかで成績を上げていったことがみてとれます。

現在の畜産経営は、資金、資本の差が経営の差にあらわれている側面があります。しかし、少ない資金でも、自らの力をこのような設備工事に投入することで、何倍もの価値を作り出し、かつ仕事を楽しくすることは、畜産では大いに可能なことなのです。

（筆者：(有)黒豚振興エージェンシー代表取締役）

「農場長の役割― 座学で絆(きずな)を考える」2011年第2回(通算132回)

現場目線、すべての人に開かれている養豚塾開講のお知らせ

農林水産省公表の畜産統計によると、今年２月現在の養豚農家戸数はわずか6000戸です。激しい競争淘汰の中で生き残ってきた者のみが経営を続けられるのか？ TTPで養豚をはじめとする国内農業は、壊滅してしまうのか？こんな時こそ、ともに考え交流する場を持ちたいと企画しました。都丸さんは、群馬でゼロから立ち上げた家族経営で母豚170頭の経営を築いてきました。東京農大名誉教授の新井先生は、JAでの経営指導から畜産簿記の手法を生み出し、現場目線で長年にわたり学生を指導されてきました。青森の木村さんは、父親から受け継いだ経営を発展させ数々の新技術も取り入れ母豚1200頭の経営を行い、素晴らしい繁殖、肥育成績を収めています。古市さんは、九州の種子島で幼いころから高校まで、農家養豚現場にまみれながら、立派に管理されてきた実績をもっています。勉強すれば養豚の未来は必ず開けます。

＜プログラム　＆　講師＞

１２月２日（金曜日）

「農場長の役割とストックマンシップ」　養豚塾　ピッグスペシャリスト　山下哲生氏
「家族経営の養豚の目指せるところ」　(有)ピックニク　都丸明浩氏
「世界養豚経営と家族経営」座学①　東京農業大学名誉教授　新井　肇氏

１２月３日（土曜日）

「企業養豚のポイントと今後の戦略」　㈱木村牧場　木村洋文氏
「農家養豚で考えたことと養豚への思い」座学②　種子島出身　古市良洋氏
まとめとフリーディスカッション

☆ 会場　山手線高田馬場駅早稲田口　徒歩２分西友前　河上ビル６階バリュー貸会議室
☆ 詳細はホームページをご覧ください。　http/www.pigjapan.com

(独)農畜産業振興機構からのお知らせ

肉用牛肥育経営安定特別対策事業(新マルキン事業)の肥育牛補塡金単価について

[平成23年９月]

１頭当たりの肥育牛補塡金単価

牛肉・稲わらからの暫定規制値等を超えるセシウム検出に関する緊急対応策のうち肥育経営の支援対策として、肉用牛肥育経営安定特別対策事業の平成23年第２、３四半期（７月～12月）の補塡金について、月ごとに支払う方式とします。

平成23年９月に販売された交付対象の契約肥育牛に適用する肉用牛肥育経営安定特別対策事業実施要綱第５の６の⑽のアの(ｱ)の肥育牛補塡金の単価については、**表１**の通り公表しました。

また、補塡金の支払いは、10月末までに販売確認申出書の提出を受け、11月下旬に行うこととしています。

なお、青森県、岩手県、宮城県、福島県、栃木県、茨城県、千葉県、長野県、新潟県、宮崎県、熊本県および鹿児島県については、平成23年９月に販売された生産者積立金の納付が免除された交付対象の契約肥育牛に適用する肉用牛肥育経営安定特別対策事業実施要綱附則10、19および22の肥育牛補塡金の単価について、**表２**の通り公表しました。

（表１）肥育牛補塡金の単価の算定　　単位：円／頭

区　　分		肉専用種	交 雑 種	乳 用 種
平均粗収益	(A)	741, 212	475, 508	258, 840
平均生産費	(B)	832, 883	610, 661	351, 315
差額	(C)＝(A)－(B)	△ 91, 671	△ 135, 153	△ 92, 475
補塡金単価	(C)× 0. 8	73, 300	108, 100	73, 900

注：100円未満切り捨て

（表２）肥育牛補塡金単価
（生産者積立金の納付が免除された交付対象の契約肥育牛）

肉専用種	交 雑 種	乳 用 種
54, 900円	81, 000円	55, 400円

注：本事業は、新たな事業として基金の運営、管理を平成22年４月から開始したことから、補塡金交付額に見合う財源を確保できない場合、肉用牛肥育経営安定対策事業（マルキン事業）同様に、上記補塡金単価を減額することがあります。

○　肉用牛肥育経営安定特別対策事業実施要綱（抜粋）
第５の６の⑽のアの(ｲ)
県団体は、肥育安定基金の全額を取り崩してもなお支払うべき肥育牛補塡金の額に不足が生じる場合は、理事長の承認を受けて、補塡金単価を減額することができるものとする。

あいであ＆アイデア

自作カーフハッチを利用した子牛の損耗防止対策

岩手県県南家畜保健衛生所　宮 崎　 大

離乳期の子牛は低温に弱く、生産環境限界温度（低温）は５℃といわれています。低温によるエネルギーの消耗、栄養状態の低下は病気に対する抵抗力の低下を引き起こすことから、温度確保のため、一般的に冬場は夏場に比べ牛舎を密閉する時間が長くなる傾向にあります。

一方、保温のために牛舎全体を密閉することで、アンモニア濃度の上昇等により環境が悪化し、これによって疾病や事故発生が増加し苦慮しているケースも少なくありません。また、ヒーター等の設備による保温は、設備費や光熱費による生産コストを増大させ、これが経営を圧迫している例も散見されます。

このことから、低コストで保温と換気を両立する有効な対策が求められています。

そこで私たちは、低コストで簡易な自作カーフハッチ（以下「ハッチ」）を設置し、換気の励行による子牛飼養環境の温度ならびにアンモニア濃度の推移を調査し、当該対策による損耗防止効果を検証しました。以下、自作の簡易なハッチの作製方法とあわせて紹介します。

対象農家の概要

対象農家は冬場に疾病が多発し、対策に苦慮していた黒毛和種飼養農家２戸です。

繁殖雌牛80頭を飼養する繁殖専業農家（以下「Ａ農場」）は、平成20年１～３月の子牛治療頭数は延べ169頭で、治療費は67万2290円を要していました。

また、黒毛和種繁殖雌牛36頭と肥育牛90頭を飼養する一貫農家（以下「Ｂ農場」）は、治療頭数184頭で、治療費66万770円を要していました。

ハッチの作製

コストの削減と普及性を重視し、ハッチは以下のとおり容易に手に入り、しかも安価なもので作製し、既存資材の活用も可能なものとしました**（写真）**。

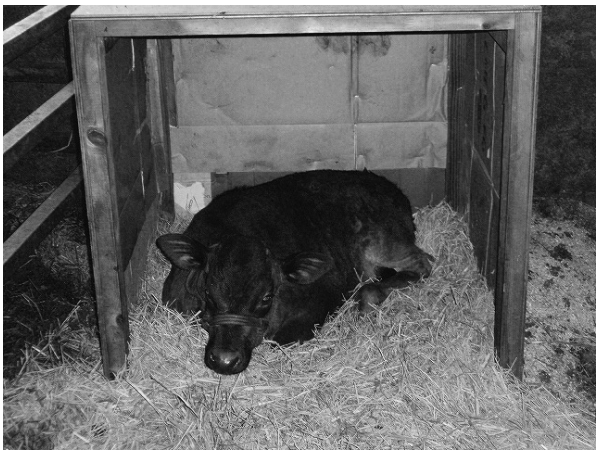
⑴　材料

コンパネ	900×900×９㎜	@1500円
角材	910×24×24㎜	@200円
丸釘	25㎜	@100円
ダンボール	１ｍ×50ｍ	@5000円
布テープ	50㎜×25ｍ×30個	@7045円

⑵　ハッチ概要

①サイズ（㎜）：900×900×900

②保温対策：天井、壁面（左右、奥の３面）にダンボールを貼付。床には乾燥した稲わらを十分に敷きました。



（写真）自作カーフハッチ

⑶　作製費

Ａ農場：1200円／基×４基＝4800円
（既存資材を活用）

Ｂ農場：4000円／基×３基＝１万2000円
（資材は全て購入）

（参考：市販ハッチは１基２万8000～９万円）

飼養方法

⑴　保温条件

分娩１週間後を目安に自作ハッチを分娩房内に設置し子牛が自由に出入りできるようにしました。なお、Ａ農場はカーボンヒーターを併用、Ｂ農場はハッチのみの保温で実施しました。

⑵　換気条件

原則として、日中は牛舎の窓を全開にし換気を励行することとし、夜間は窓を締め切り牛舎内温度を確保することとしました。

⑶　温度計測

ハッチ内とハッチ近傍の牛舎内（以下「ハッチ外」）に経時的に温度を測定する装置を設置し、１時間ごとに温度を測定しました。

⑷　アンモニア濃度計測

北川式ガス検知器を用いて週１回測定しました。なお、計測は温度計測と同様の場所で、子牛の伏臥した時の頭の位置を想定し、牛床から30㎝のところで測定することとしました。

飼養成績

⑴　温度の推移（図１、図２）

Ａ農場においては、計測期間中（平成20年12月～平成21年３月）のハッチ内温度は14～７℃で生産環境限界温度以下になることはありませんでした。

Ｂ農場では、保温効果は認められたものの、外気温が非常に低かったため（０～４℃）、計測期間中（平成21年１～３月）のハッチ内温度はマイナス２～９℃となり、１～２月は生産環境限界温度以下になりました。

あいであ＆アイデア

両農場とも、ハッチ内はハッチ外と比べて１～５℃高く、一定の保温効果が確認されました。

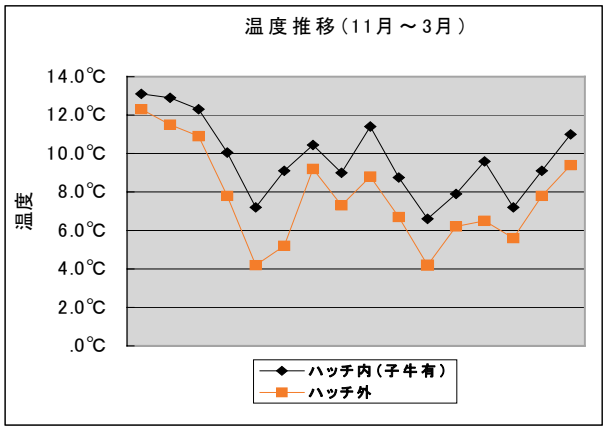


図１　Ａ農場温度推移

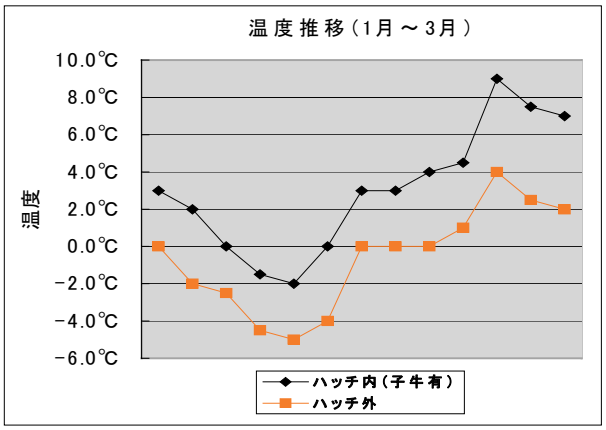


図２　Ｂ農場温度推移

⑵　アンモニア濃度の推移（図３、図４）

Ａ農場は平均６ppmと概ね低く抑えられましたが、12月下旬および２月中旬から３月上旬にかけて一時的に９ppmまで上昇し、この時期の呼吸器病発生件数が増加しました。

Ｂ農場は平均２ppm（最高も４ppm以下）で推移し、呼吸器病発生件数が激減しました。

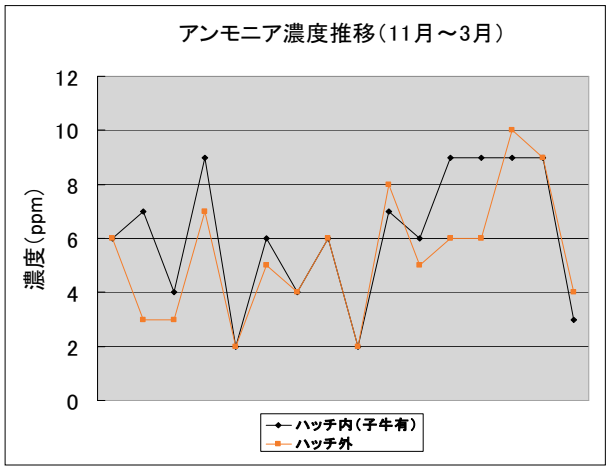


図３　Ａ農場アンモニア濃度推移

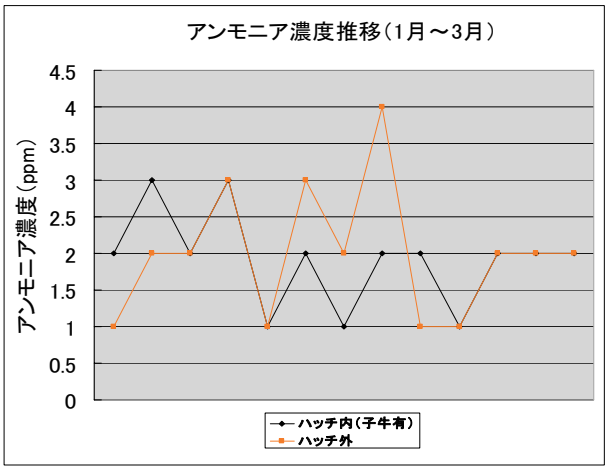


図４　Ｂ農場アンモニア濃度推移

⑶　疾病発生状況

両農場における平成20年１～３月および翌年同時期の子牛治療延べ頭数、子牛１頭当たり治療回数および治療費（総額）を比較すると、Ａ農場では、延べ頭数が169頭から185頭と微増（前年比109.5%）しましたが、再発する子牛が減少し、１頭当たり治療回数は5.28回か

ら3.08回に改善（前年比58.4%）、この結果、診療費も67万2290円から53万7960円（前年比80.0%）に削減することが出来ました。

B農場では、治療延べ頭数、1頭当たり治療回数がそれぞれ184頭から64頭（前年比34.8%）および10.82回から4.27回（39.5%）と激減し、治療費も66万770円から28万440円（前年比42.4%）に大幅に削減されました。

⑷　費用対効果

A、B両農場の対策前後のコストについて、治療費、ハッチ作製によって削減された光熱費およびハッチ作製に要した費用を比較したところ、A農場では18万9530円、B農場では54万8330円がそれぞれコスト低減されました（**表1**）。

表1　費用対効果（対前年同時期比）

	治療費※	光熱費※	ハッチ作製費	合計
A農場	△134, 330円	△60, 000円	4, 800円	△189, 530円
B農場	△380, 330円	△180, 000円	12, 000円	△548, 330円

※：対策実施時期と対前年同時期のコストの差額

⑸　農家の意識

A、B両農場とも本対策の効果を実感し、自発的にハッチを作製（A農場では6基増設の計10基、B農場では4基増設の計7基）し、対策を継続しています。また、B農場では、今年度も引き続き温度計測を実施したいとの要望があり、機器を設置したところです。

その他にも、ハッチの設置により子牛の異常発見が容易になり早期治療が出来た、ヒーターでの保温に比べ子牛の調子が良いなどの効果の声もあがっています。

まとめ

①自作ハッチは、低コストで簡易に作製できることから、多くの農家で実施可能です。

②ハッチ内はハッチ外より約1～5℃温度が高く、積極的な換気が可能であることから、アンモニア濃度の低減等に有効です。

③子牛の調子が良くなり、異常があっても気がつきやすいなどの効果が認められ、農家もそれを実感し、積極的に対策を継続するようになります。

④自作ハッチは子牛の損耗防止に効果があることが示唆されることから、今後は地域への事例紹介や普及に一層努めていきたいと思っています。

（筆者：岩手県県南家畜保健衛生所防疫課主査獣医師）

※本欄に掲載する情報・原稿を募集しています。あなたのアイデアが、経営改善の第一歩に！